

取組事例

(所定外労働削減・**年休取得促進**・多様な正社員・朝型の働き方・テレワーク)

企業名：医療法人 凌雲会 稲次整形外科病院	所在地：徳島県板野郡藍住町
社員数：250名	業種：医療、福祉

取組の目的：

医療・介護サービスは、生活直結型サービスです。特に日曜日や国民の祝日には、ファミリーで過ごしたり、地域の活動に参加することにより休息や心のゆとりができ、更に利用する方の視点でサービスを捉えることで、より良いサービスにつながると考え創設しました。

取組の概要：

現在の取組

トップメッセージ

基本理念である「利用者が受けてよかったと思えるサービス」を実践していくためにも、制度を積極的に活用し、1人1人が特に家族や地域とのつながりを深めてもらいたい。

特別休暇（フレッシュアップ休暇）の創設

以前は、完全週休二日制であったが、特に子育て支援中のスタッフから、子供が急な発熱等により、事後有給休暇取得数が多く、自分の時間としての休暇が取りづらいとの意見や、公的医療機関等に並ぶ職場環境への取り組み要望としての意見から平成27年4月に創設しました。

国民の祝日数と同日数が付与され、次年度への繰り越しは不可のため全スタッフが当該年度内の全消化を目指す。

多様な就業スタイルへの対応

ワークライフバランスを向上させるために、画一的な雇用スタイルではなく、本人の希望する、就業時間、曜日、日数等を考慮した勤務スタイルを創設し、環境が変われば見直しを行い、各スタッフのライフスタイルをできる限り優先している。

女性、特に子育て支援への取り組み

雇用形態に関わらず、産前・産後休暇、育児休業を取得している職員が平成26年度12名（昨年度は8名）と増加してきている。現場の先輩職員も子育て期間のスタッフへの育児休暇や看護休暇取得を十分理解し、24時間365日稼働の院内託児施設の運営等により前記20名中19名が職場復帰している。

ノー残業デー

医療・介護現場では、365日24時間サービスが基本となるため、導入が厳しいと思われたが、毎月第3土曜日をノー残業デーとして定め、毎月1日の全朝礼や当日の朝礼、グループウェア等で周知し、積極的に取り組んでいます。

現状とこれまでの取組の効果：

利用者・スタッフのQOLを重要視

私たちが大切にしなければいけないものは、「ヒトとなり」。利用者、スタッフもそれぞれのライフスタイルがあり、それが自身希望するスタイルに近ければ生活の質も向上します。スタッフも画一的な就業スタイルをできる限り払拭し、利用者への個々のニーズにあったケアが実践できている。

子育て支援への理解

毎年10名前後の産前・産後休暇、育児休業を取得しているスタッフが、ほとんど職場復帰している。これは、現場の責任者を始め、先輩・同僚等の子育て支援への理解の賜物であると確信しています。

特別休暇（フレッシュアップ休暇）の創設

子育て中のスタッフでも、例えば、有給休暇は今まで同様、子供さんの急な発熱等への対応として、フレッシュアップ休暇は、自分への充実した時間として、旅行や趣味活動、地域活動へ積極的に取得できると考えます。

今後の取組

現場のIT化をさらに加速させることや、ロボット技術による介護支援軽減等を図る。

ノー残業デーの拡大。

小学生の児童への学童保育や学校、塾等への迎えサービスを行い、子育て支援を強化していく。